

宮崎県漁協青壮年部連絡協議会

会長 中野 利勝

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、会員の皆様を初め、関係団体や行政の皆様方には多大なるご協力、ご高配を賜り誠にありがとうございました。

書面をお借りしお礼を申し上げます。

本年もより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。



さて、我々漁青連は、会員相互の連絡調整を図り、漁協・関係団体と提携して会員の組織活動強化を促進し、県内水産業の発展と漁村文化の向上に寄与することを目的に活動を行っております。

昨年は、例年行っておりますリーダーシップの取れる会員養成を目的とした研修会の開催に加え、初の取組として県庁楠並木通りで開催されたイベントに役員を主体とした会員メンバーで参画し、県下会員が漁獲した生鮮水産物の販売活動を行い、会員間の絆を更に深めることが出来ました。

我が国水産業界では、一昨年改正された新たな漁業法の下で、漁業再生・浜の再生に向けて実践している水産改革をさらに進めていくことを決意しました。

改革を実効あるものとし、将来にわたって漁業を成長産業として発展させるためには、その裏付けとなる沿岸漁業の競争力強化予算の大幅拡充並びに漁業経営安定対策及びコスト対策予算の拡充をはじめとした全体予算の確保が必要不可欠であることから、全国漁青連により国に対し強く要望活動を行いました。

我々漁青連と致しましても、全国組織である全国漁青連を通じ、水産政策改革について会員間で情報共有を行うとともに、JFグループの取組である浜プラン・広域浜プランの実践と高度化に積極的に参画し、全国の青年漁業者のつながりを活かして浜の改革に精進する所存でございます。

一方、県内におきましては、県内JF全体で2017年度より第二期目の基盤強化アクションプランに取り組んでおり、本年度は3年目を迎えております。

同プランにより、県内JFの事業・組織体制の改善が図られた部分もあれば、未だ課題等が残されている部分もあると認識しております。

そのような状況の中、我々漁青連としましても、会員の柔軟な発想と若い力を集結して、本県水産業の発展に努力し、活動内容をより一層活性化させ、組織強化に務めて参りますので、引き続き皆様方のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、皆様方のご健康と航海安全並びに大漁を御祈願し、私の挨拶とさせていただきます。